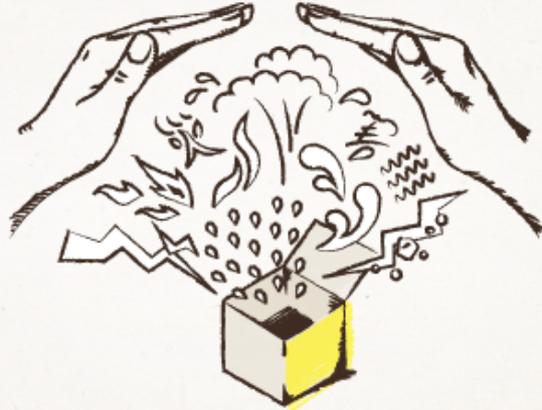


わたしがつくる つぎの防災・減災



メディア・アーカイブから防災・減災を考えるワークショップシリーズ【全3回】

会場 信毎メディアガーデン 3階 スタジオ

【1st】 2019/12/18 [WED] 18:30-20:30 | 【2nd】 2020/1/26 [SUN] 13:30-16:30 | 【3rd】 2020/2/26 [WED] 18:30-20:30

メディア・アーカイブから防災・減災を考えるワークショップシリーズ【全3回】 『わたしがつくる つぎの防災・減災』

【企画概要】

2019年10月の台風19号豪雨による千曲川の河川氾濫では、この長野県地域も大きな被害を受けた。近年、豪雨や地震などの自然災害が日本各地で多発し、「今までに経験したことが無い」と常に言われるほど、甚大な被害に至るケースが多くある。東日本大震災からも10年近くが経過した、今、これまでの災害の経験がどの様に活かされているのか、いつ起こるかかわからない災害に対して市民は何を考え行動しなければいけないのかを、このワークショップでは参加者全員で考えたい。

今回のワークショップでは、「防災・減災」と「メディア」をキーワードに、新聞などのメディアが報じてきた過去の情報を整理・検証し、自らもまた情報収集する側に立つことで、つぎにつなげる「防災・減災」を自らの目線で考え、新聞記事としてまとめて発行する全3回のワークショップシリーズとする。

これからの暮らしを支える「防災・減災」について、講師からの専門的な情報や知識を学び、過去の新聞記事がまとめられているデジタル・アーカイブを活用しながら、参加者と一緒に考えてみる。

2018年度は、第1回目の企画として、メディアが有事発生から事後の復興までの期間において何を報道し、どんな役割を果たしてきたのか？また、有事に関する情報をどの様に今後活かしていくのかという点でデジタルアーカイブが果たす役割について、市民の防災減災に対する関心度の向上と共に考える機会を作りつつ、各種メディアの役割について考えた。

2019年度は、メディアのもつ情報力（情報収集力）に着目し、これまでにメディアが報じてきた過去の情報を整理し、まとめ、また、自らも情報を集める側にたち、情報の発信源の1つとなることで、つぎにつなげる防災減災を自らの目線で考える機会の創出をねらう。

1. 過去の記事を網羅するDBを活用し、テーマに沿って、関連する記事（事実）から情報を抽出する。
2. 情報を整理/まとめる上で必要な視点（市民生活から学術的視点まで）や自ら収集した情報を加えながら、つぎの防災減災につながる（繋げる）情報としてまとめ、発信する。

上記を計3回程度のワークショップを実施し、全体シンポの中で結果を報告する。ワークショップで作成した模擬紙面は、ホームページや信毎MG等で掲示するなどを行う。

【開催日時】

(実施済) 第1回

日時：2019年12月18日(水) 18時30分～20時30分

(実施済) 第2回

日時：2020年1月26日(日) 13時30分～16時30分

第3回

日時：2020年2月26日(水) 18時30分～20時30分

【場所】

信毎メディアガーデン スタジオ

【参加者数】 参加者：17名(第1回目)、17名(第2回目)

【情報提供者】

信州大学 教育学部 廣内教授、地域防災減災センター長 菊池教授

信濃毎日新聞 情報メディア局 前川専門員、読者センター 藤森センター長、
松本本社報道部 宮沢記者

【第1回目】

第1回目は、イントロダクション「導入編」として、アーカイブとはなにか?どんな時に役立てられるのか?などを、「神城断層地震震災アーカイブ」を題材に参加者全員で考えた。その中で、常に情報を発信しているメディアとの関係性についても考え、情報と防災減災との関係性を捉え直した。

また、メディアの中でも過去の報道が整理され、常にアップデートされているアーカイブがある新聞記事のアーカイブの現状についても紹介された。

時間	実施内容
18:30	オープニングセッション
～18:45	今回のワークショップのねらい 本日のタイムライン
18:45	トピックトーク I
～19:15	防災減災のためのアーカイブとは～2014年神城断層地震震災アーカイブから考える～ 情報提供者：信大教育 廣内先生
19:15	ラップアップ/トピックトーク I
～19:45	参加者の気づきを整理しながら、「つぎの防災・減災」を考える上での視点を集める。 トピック I に関する問い：「防災・減災」を考えていく中で、「何を知っておく」ことが次の有事において役にたつのか?
19:45	ピクトーク II
～20:00	新聞社が持つ DB の可能性について ～新聞が災害時、何を伝えてきたのか?～ 情報提供：信毎 前川メディア局専門委員
20:00	ラップアップ/トピックトーク II
～20:10	参加者の新聞記事にたいする向かい方を考える。 トピック II に関する問い：新聞社が持つ DB には、どんな情報がありそうか?眠っていそうか。 役に立つ記事とは?
20:10	ワーク
～20:30	「つぎの防災減災」のために、新聞記事として何をつたえる? 本日の内容をグループで整理。
20:30	クロージング
	次回の内容について 「記事しらべ」のホームワークについて

～15：50

グループで集まり、必要そうな記事（集めないといけない情報）、紙面の構成を考えてみる。

- ・紙面を通じて伝えたいメッセージを考える
- ・紙面を構成するために必要な情報（記事）を考える。
- ・紙面全体の構成を考えてみる。

15：50

ワーク：記事作りについて（信濃毎日新聞社）

～16：30

参加者のテーマを題材にしながら、記事作りのポイントを伝える。

20：30

クロージング

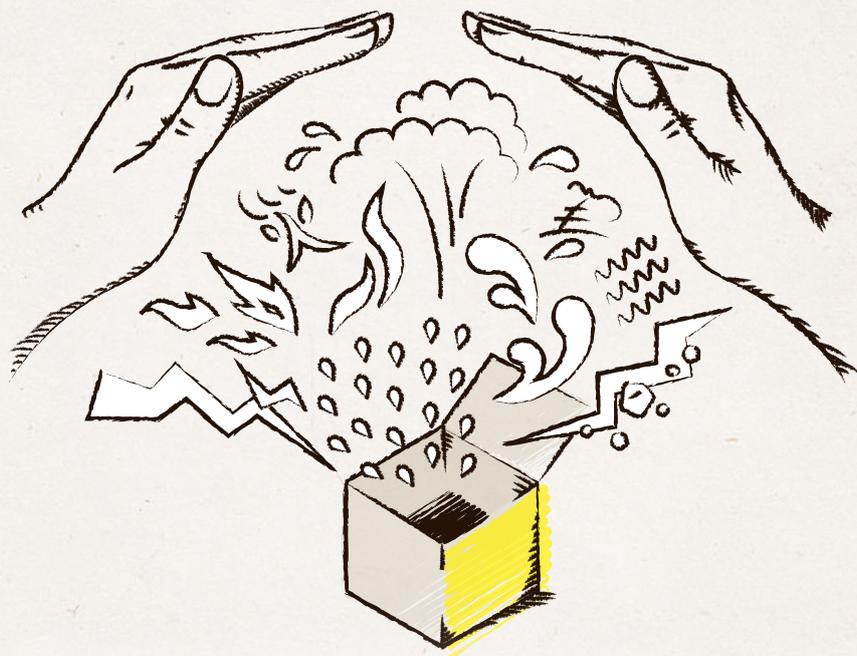
次回の内容について



参加費
無料!



わたしがつくる つぎの防災・減災 2020



メディア・アーカイブから防災・減災を考える
シンポジウム

2020.3.7 [SAT] 13:30~16:30

会場 信毎メディアガーデン 1階 ホール (長野県松本市中央 2-20-2)

定員 50名 / 対象 どなたでもご参加いただけます



Presentation



Talk session



Dialogue



Idea



Newspaper

主催 信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 信州リビング・ラボ事業 /
信州大学 教育学部、人文学部 / 信州大学 地域防災減災センター / 信濃毎日新聞社

後援 長野県 / 松本市 / 伊那市 / 白馬村 / 小谷村 / 長野県教育委員会 / 白馬村教育委員会 /
長野朝日放送 (株) / 信越放送 (株) / 長野エフエム放送 (株) / NHK長野放送局



Newspaper



TV



Radio



SNS

わたしがつくる つぎの防災・減災 2020

メディア・アーカイブから防災・減災を考えるシンポジウム

Outline

2019年10月の台風19号豪雨による千曲川の河川氾濫では、この長野県地域も大きな被害を受けました。近年、豪雨や地震などの自然災害が日本各地で多発し、「今までに経験したことが無い」と常に言われるほど、甚大な被害に至るケースが多くあります。

東日本大震災からも10年近くが経過した、今、これまでの災害の経験がどの様に生かされているのか、いつ起こるかわからない災害に対して市民は何を考え行動しなければいけないのかを、全3回のワークショップで考えてきました。

このワークショップの成果を受けて、シンポジウムでは、ワークショップの参加者は活動のなかで、「つぎの防災減災」というテーマに対して何を考えたのか？参加者が発信した情報からみえてくるものは？を切り口に、市民活動の可能性を考えます。また、現状のアーカイブ研究などを例に、市民活動との関係性や、災害に関する情報のあり方などを、活字メディアとして信頼のある新聞社からのコメントも加えながら検討します。

Schedule / Place

日時 2020/3/7(土) 13:30~16:30 (受付 13:00~)

会場 信毎メディアガーデン 1階 ホール

〒390-8585 長野県松本市中央2丁目20-2

※当施設に専用駐車場のご用意はありません。公共交通機関や周辺の有料駐車場をご利用下さい。

Contents



Presentation

ワークショップ参加者のプレゼンテーションを聞きます。



Talk session

専門家のトークセッションを聞きます。



Idea

「つぎの防災・減災」、新しいアイデアや取り組みを皆様と一緒に考えます。



Dialogue

参加者全員での対話から考えます。



Newspaper

新聞紙面(模擬)から、防災・減災を考えます。

Application 参加費無料

定員 50名【要事前申し込み】

対象者 どなたでもご参加いただけます。

申込方法

参加のお申し込みについては、WEBページ/メール/FAXのいずれかよりお願い致します。

●WEBページ: [Q 信州リビングラボ](https://www.shinshu-u.ac.jp/project/livinglab/)

<https://www.shinshu-u.ac.jp/project/livinglab/>

●メール: living-lab@shinshu-u.ac.jp
氏名(グループでの応募の場合は参加者全員分の氏名と参加人数)/連絡先をご記入の上送信してください。

申込みはこちら↓



●FAX: 0263-37-2076

以下をご記入の上送信してください。

フリガナ氏名	
メールアドレス	
電話番号	-
グループ応募の場合 参加人数	人

Program

第1部 13:30~14:30

ワークショップ活動報告

2019年12月~2020年2月の期間において実施したワークショップの活動報告として、参加者グループが作成して「わたしがつくる、つぎの防災・減災」をテーマにした情報発信記事を新聞紙面(模擬)としてまとめた内容について、各グループから報告を行います。



第2部 14:45~16:30

対話企画1: ワークショップでの市民活動からみえてくる「防災・減災」とは

対話企画2: 「つぎの防災・減災」に対して何を考え、どのように行動できるのか

登壇者: 廣内大助氏(信州大学教育学部・教授)

山口勝氏(NHK放送文化研究所メディア研究部)

宮沢久記氏(信濃毎日新聞社松本本社報道部記者)

ワークショップ参加者 他

ファシリテーター: 中村征樹氏(大阪大学全学教育推進機構・准教授)



Event image

今年度のワークショップの様子。



昨年度のシンポジウムの様子。



Contact

信州リビング・ラボ事務局

〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号

信州地域技術メディカル展開センター1階

TEL: 0263-37-2067 FAX: 0263-37-2076

E-mail: living-lab@shinshu-u.ac.jp

